

## レタスと幼虫 観察同時に

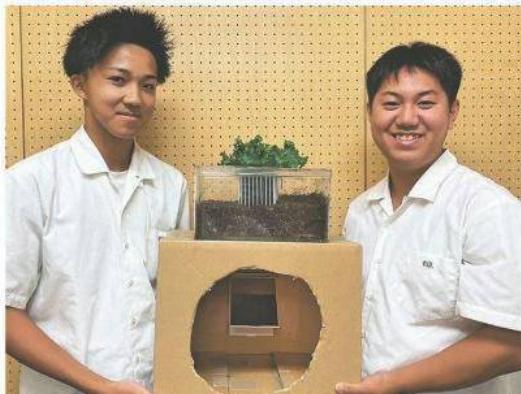
大曲農業高野菜部



# 廃活菌床用 循環型農業教材を開発

部によるとシタケ栽培で使い終わった廃菌床は横手市で年間360万個なり、処理が課題。同市の農業ベンチャーエンタープライズ（ペルツ）は廃菌床を粉碎、加工してカブトムシ幼虫の餌兼ベッドとなる「Kマット」として販売している。このほか、幼虫のふんと使用済みKマットを活用した堆肥、育てた成虫の販売も手がけている。部

大仙市の大曲農業高校野菜部が、子のもたちに循環型農業への関心を持つてもらおうと、教材を開発した。シニケ栽培に使つた腐葉床を有効活用し、レタスとワブトムンの幼虫が同時に育つ様子を観察できる。開発の経緯をまとめて、地域を元気にする政策アイデアを競う内閣府の「地方創生☆政策アイデアコンテスト」に応募。東北経済産業局長賞を受賞した。



カブトムシの幼虫とレタスを同時に育てる循環型農業の教材を開発した関口部長（右）ら＝大曲農高提供



©秋田魁新報社

丹野課長(左)から表彰状を受け取る部員たち

は同社の堆肥の有効性を確認して、商品化に協力した経緯がある。

型農業で奇跡を起し、「地域活性化した」との由いを込めて「くるくろく」クリヘラクレス」と名付けた。

東北経済産業局の丹野樹企画調整課長が11月29日、高校を訪れ、部員に表彰状を手渡した。丹野課長らは「仮説立てて、改善

「若い世代に循環型農業を知つてもらい、普及と地域活性化につながればいい」と賣ひを語つた。

オオカブトの幼虫を育てながら、同一のケース内で幼虫のふんを活用してレクタスを栽培する教材キットの開発に着手。レタスが傾いたり、根腐れを起すといったように試行錯誤しながら、近隣の保育園や小学校等に貸し出して子どもたちの反応を確認。今夏に納得いくものができた。「循環

8月27、28日に大仙市など  
で開かれた日本学校農業  
クラブ東北連盟大会で研究  
発表し優秀賞を受賞。商品化  
する場合のコストを算出する  
など、新たな要素を加え、循環型  
地域振興を図る政策アイデアを  
これまで直して内閣府の  
のコンテストに提出してい  
た。

し、「コスト試算までした店を評価した」「地域の人の力を最大限に發揮する」といふ言葉が素晴らしい」とし「若い力ではどんなチャレンジをして」を激励された。